



今、ボランティアセンター担当者にとって大切なコーディネート力。企業との連携、福祉教育の推進、そして災害ボランティアなど、地域の課題に協働で取り組むため、コーディネートが重要になっていきます。ボランティアセンター担当者が押さえるべきコーディネートのポイントを連載で紹介します。

認定NPO法人 JUON(樹恩)NETWORK理事
・事務局長

かすみ たかゆき
鹿住 貴之 さん

NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会副代表理事。学生時代に、とうきょう学生ボランティアふぉーむ、早稲田大学学生ボランティアセンターの設立に参画し、代表を務める。1998年大学生協の呼びかけで設立されたJUON NETWORKに事務局スタッフとして参画。99年3月より事務局長。その他、NPO法人森づくりフォーラム常務理事、東京ボランティア・市民活動センター運営委員、杉並ボランティアセンター運営委員等様々な市民活動に携わっている。著書に「割り箸が地域と地球を救う」(創森社・共著)等。

第7回 若者に参加してほしいなら若者の話を聴くことから始めよう!

若者の今

「金はないけど時間はある」。20年以上前に私が大学生だった頃、学生はよくそんなふうに言われました。しかし、それは今は昔。今は、「金もないけど時間もない」。就職活動の開始時期は早まり、今や何らかの奨学金を受給している学生は、2019年度の全国大学生生活協同組合連合会「学生生活実態調査」によれば、30.5%。下宿生の仕送りの平均は72,810円です。

また昔の大学とは違って、しっかり授業に出席しなければ単位も取れません。つまり、今の学生がボランティア活動に参加することは、なかなか厳しい状況です。一方で実際に活動している学生もいます。「どうしたら活動に参加してくれるのだろう?」そう思うのであれば、本人に話を聴くしかありません。そう、ニーズアセスメントです。

環境保全団体の事例

日本ボランティアコーディネーター協会が主催する全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)では、若者をテーマした分科会が毎年必ず企画されます。それだけ、ボランティア活動に若者の参加は欠かせないのです。今年2月に開催したJVCCの分科会「若者ボランティアの『はじめの一步』を踏み出しやすくするには?」で私が紹介したのは、1999年からJUONで実施する「森林ボランティア青年リーダー養成講座」についてです(ここでいう「若者」は、大学生を中心としたおおむね20代のイメージ)。講座は東京からスタートし、現在は関西、四国でも開催しています。

今から10年ほど前、東京では参加者が定員の20名を大幅に超える年もありました。しかし、ここ数年は10人を切っています。当初から5回連続講座で、1泊2日の現場実習が3回というスタイルでしたが、これが時代に合わなくなってきたのです。土日の2日間を3回もとれ

る人がいない、他の人と一緒に入浴や宿泊するのは苦手という人もいます。私は初めて会った人とお酒を飲むのが楽しいのですが、「なぜ知らない人と一緒に飲まなくてはならないの?」と感じる若者も少なくありません。時代の変化であり、昨年度は泊まりを1回に減らし、その成果か(?)参加者は2桁に回復しました。

また、自然環境復元協会からは、3,500名以上の若者が登録する「レンジャーズプロジェクト」の事例を紹介いただきました。高齢化する環境保全団体に若者が参加できるよう、ターゲットとなる若者像(例えば、「東京都在住、1人暮らし、女性、25歳、OL、スマホ所有、主にLINE・Instagram・Twitterは使用するがFacebookは使用しない」等)を明確に設定した上で、体力面・技術面・知識面・費用面の不安を取り除き、また、1人でも参加しやすいようにプログラムを組んでいます。

「大学生のボランティア活動等に関する調査」

さて、国立青少年教育振興機構が3月に発行した「大学生のボランティア活動等に関する調査」は大変参考になります。「自分の成長につながると思ったから」という参加動機が45.4%と最も高く、次に「さまざまな人と関わりたいから」(28.5%)、「楽しそうだったから」(26.7%)、「関心のある分野や社会問題の現場を見たかったから」(26.2%)となっています。

また、参加してよかったことについては、「楽しかった」(41.6%)、「ものの見方、考え方が広がった」(40.5%)、「相

手から感謝された」(38.9%)、「達成感や満足感が得られた」(32.3%)の順です。逆に、よくなかったことについては、「よくなかったと思うことはない」が一番多いのですが、それを除くと「活動に時間が取られすぎた」(17.6%)が最も高く、次に「継続的に活動ができなかった」(14.7%)、「経費がかかり過ぎた」(11.0%)となっています。

聴こう! 若者の声

これまでの経験から、若者が活動を継続するためには、横のつながりや、サポートする大人の存在、多少の資金が欠かせないと感じてきました。また、学生を単なる労働力としてしか扱わなかったり、活動後のフォローもなかったりすれば継続は難しいでしょう。考えてみれば、これらのことは若者に限らないことに気づきます。もちろん、若者と言ってもひとくくりにはできません。まずは、自分の地域にいる若者と出会い、リアルな話を聴くことからつながりの第一歩を踏み出してみませんか。



森林ボランティア青年リーダー養成講座in東京
(東京都奥多摩町)

